

# 富山大学附属図書館将来構想（整備計画）

平成 24 年 1 月改訂版

富山大学附属図書館運営委員会

## 1.はじめに

第 1 期中期目標・計画期間の最終年度である平成 21 年 11 月、平成 21 年度第 2 回附属図書館運営委員会において、「富山大学附属図書館の使命」が定められた。全文は以下のとおりである。

『富山大学附属図書館は、富山大学の理念・目標を達成するために、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した国際水準の教育及び研究を支える学術情報基盤を担うものとして設置された。

附属図書館は、この任務を遂行するために、学生及び教職員が必要とする学術情報資料を整備・提供し、快適な学習・教育・研究環境を構築する。これらの資源を学外の利用者にも提供するとともに、学内外の組織・学術機関等と協力して、地域と国際社会における教育の充実、学術の進歩及び芸術文化の振興に貢献する。』

その後定められた本学第二期中期計画では、「教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置」の一方策として附属図書館に関して、

『大学の教育方針や利用者のニーズに依拠した図書館の環境整備を進め、電子図書館機能の整備・充実を図る。』

という目標が掲げられている。

第二期中期目標・計画期間を迎えて、附属図書館 3 館がそれぞれの使命を明確に認識したうえで、既存の施設・設備・資源を最大限に生かしながら、更なる整備・充実を図っていくことが強く求められているところである。

本構想は、上記を踏まえ、第二期中期目標・計画期間における附属図書館の整備に関する基本的な目標とその実現方策の骨子を示すものである。

附属図書館は、各館の実情に合わせて、各年度計画においてこの構想の具体化を図る必要がある。

## 2.附属図書館の現状と課題

### 2-1.施設・設備

大学の教育・研究を充実させるための図書館施設整備の重要性については、既に、「21 世紀の大学像と今後の改革方策について一競争的環境の中で個性が輝く大学—（答申）」（平

成 10 年 10 月 26 日 大学審議会（以下「答申」という。）において、次のように指摘されているところである。

『教育機能の充実・向上のためには、必要な教室や図書館、学生生活のための施設や設備の整備、教員の確保など、様々な条件整備が不可欠であり、施設の老朽・狭隘化の問題をはじめ、これらの基盤的な条件について十分に配慮される必要がある。』

また、「学術情報基盤の今後の在り方について（報告）」（平成 18 年 3 月 23 日 科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会・学術情報基盤作業部会（以下「報告」という。））においても、次のような提言がある。

『大学図書館は、学生にとっては学習の場であると共に大学生活の場でもあり、学生に魅力ある場所としての図書館施設・設備の整備が求められる。』

富山大学附属図書館では、学生数に対する閲覧座席数については、中央図書館で学生数の 12.4%（平成 21 年度末現在、以下同様）、医薬学図書館で 17.4%、芸術文化図書館で 17.2% と全国立大学の平均（11.0%）を上回っているものの、図書館スペース全体としては蔵書数や学生数の増加等により手狭になっている。学生 1 人当りの図書館スペースは、全国立大学平均が 1.51 m<sup>2</sup>であるのに対して、本学は 3 館全体で 1.39 m<sup>2</sup>であり、近隣の金沢大学（1.86 m<sup>2</sup>）や福井大学（1.47 m<sup>2</sup>）と比較しても狭い。

書架スペースの狭隘化も深刻であり、中央図書館と医薬学図書館では、蔵書冊数が既に収容可能冊数を上回っており、芸術文化図書館も約 92%となっている。

とりわけ医薬学図書館は、昭和 54 年に開館して以来、看護学科の新設等で学生数は 1.8 倍、蔵書冊数は 2.2 倍となっているにもかかわらず、図書館スペースの拡張は行われて来なかったため、学生 1 人当り閲覧スペースは 0.31 m<sup>2</sup>と全国立大学平均（0.49 m<sup>2</sup>）を大きく下回っている。書架収容率も 142%と全国立大学の平均 107%を大きく上回っている。閲覧スペース・書架スペースともに危機的状況にあるといえる。医薬学図書館の早急な増改修が望まれる。

資料の保存スペースの狭隘化については、3 館共通の課題であり、共通保存書庫の設置等、全学的な観点から対処策を考える必要がある。貴重資料の保存体制についても課題であり、方策を検討する必要がある。

また、快適な図書館環境を実現するには、座席数や面積等量的な拡充とともに、リフレッシュラウンジの整備や閲覧席の個席化等、質的な面での改善も望まれている。

大学図書館の多機能化も今後の重要課題である。これについては、中央図書館においては、富山大学及び各学部の歴史、教育、研究、社会貢献等に係る各種資料を蒐集、整理、保存、調査研究等を行い、それら各種資料の閲覧、公開、展示を行う大学アーカイヴズの併設、医薬学図書館では医学・薬学・和漢研を擁するキャンパスの特徴を生かし、富山県

に関係する医学・薬学資料等を収集・提供する「富山の医薬学資料室」の併設が求められている。また、芸術文化図書館でも博物館的機能とのコラボレーションによる改修計画が進められている。

## 2-2.学習支援機能

大学図書館の第一の使命が学生の学習を支援することにあることはいうまでもない。前述の「答申」において、いわゆる「単位制度の実質化」に向けて大学図書館の今後の重要な役割が、次のように指摘されている。

『教室外における学習を徹底させ、学生が主体的な学習に十分取り組むことができるようにするためには、指導を担当する個々の教員の努力に加え、図書館の座席数や必読図書 of 所要冊数の確保、開館時間や開館日、貸出期間など施設・設備利用の面を含め、学生が学習する場としての大学の学習環境の整備にもこれまで以上に留意する必要がある。』

学生1人当たりの蔵書冊数をみると、全国立大学の平均が155.5冊であるのに対して、本学は144.0冊であり、更なる蔵書の拡充が望まれる。附属図書館に備えられる学生用図書に関しては、全学的共通経費や各キャンパス共通経費により整備が続けられているが、量的な拡充とともに、今後は選書体制の見直し等質的な充実も必要である。

また、今後急速に普及していくことが予想される電子書籍についても、欧米の大学では講義資料として学生に電子配信する等、学習の場に積極的に取り入れられつつあり、本学においても活用を図っていく必要がある。

開館時間や開館日等施設の運用面についても、各館の使命と実情に合わせて、費用対効果を勘案しながら、充実させていく必要がある。

更に、「答申」において大学図書館に求められている役割を果たしていくためには、学習に必要な図書や雑誌等とそれを閲覧するスペースを提供するだけでは不十分であり、講義の予・復習やレポート・論文の作成が効率的に行える場、更に個人あるいはグループで自主的に学習を進めていく場として、近年国内外の大学図書館で設置が進んでいるラーニングコモンズの本学への導入も重要な課題である。

情報リテラシー（情報利活用）教育も、現状は取り組みが不十分であり、教養教育の講義やゼミ等と緊密に連携を図りながら、大幅に充実させていく必要がある。

## 2-3.研究支援機能

研究活動に不可欠な電子ジャーナル・データベース等の網羅的な収集と利用環境の整備も、附属図書館の重要な使命である。本学では平成22年4月現在8,226タイトルを学内利

用者に提供しており、全国立大学の平均（5,014 タイトル）と比べ先進的な充実を進めている。しかし、人文社会科学分野の整備が不十分である等課題もかかえている。購読費の高騰が更に続くことが予想される状況の中で、予算の拡大を抑制しつつ、各分野に配慮した効果的な収集・提供を進めていく必要がある。

同時に機関リポジトリを活用することによって、研究成果をインターネット上に無償公開するオープンアクセスを推進し、研究者の研究成果発信を支援するとともに、商用の電子ジャーナルに頼らない学術情報流通の推進に寄与すべきである。

また、研究に必要な図書や雑誌の整備も重要である。特に、個々の研究者や部局では購入が困難な高額な大型のコレクションや貴重図書等を、全学的な見地から整備する体制を附属図書館が中心となって整備する必要がある。

## 2-4.社会貢献・地域連携

附属図書館が平成19年度から運営している「富山大学学術情報リポジトリ(ToRepo)」は、本学の教員等が研究や教育活動を通じて生産した論文等の成果物を、電子的な形態で収集・保存し、インターネット等を介して無償で広く公開することを通じて、本学の研究活動の成果を社会に還元する役割を果たしている。平成23年12月現在、約4,800件のコンテンツを収録しており、年間本文ダウンロード件数は、40万件を超えている。しかし、広報・普及活動の不足や収録作業の煩雑さ等のため、大学の規模と比較して収録論文数は少なく、富山大学の主要な研究成果をカバーしているとはいえない。リポジトリの活性化が課題である。

医薬学図書館が行っているNPO法人「とやまのくすりライブラリー」の支援は、富山県との連携によるユニークな取り組みであり、今後も充実させていく必要がある。また、近隣の医療関係者へのサービス提供や連携病院との電子ジャーナルコンソーシアムの推進は、医薬系学術情報の充実を通じて地域へ貢献する取り組みとして今後も継続することが重要である。

また、地域の図書館などの関係機関との連携も強化する必要がある。現在は富山県立図書館との連携のみであるが、今後は連携の対象を市立図書館や博物館、文書館等にも拡大し、内容的にも資料や施設の相互利用に止まらず、資料保存・展示や職員研修等で協同事業を行う等多様な形態を模索する必要がある。

## 3.附属図書館整備の目標と方策

以上述べてきた附属図書館の現状と課題を踏まえ、第二期中期目標・計画期間の附属図書館整備の目標と方策を以下に掲げる。

### 3-1.施設・設備

#### 3-1-1.利用環境の整備

目標：学習・研究のためのより快適な図書館環境の実現を目指す。

方策：各館の事情に合わせて、閲覧スペースやラウンジスペースの拡充、開館日数・開館時間の拡張を図る。

#### 3-1-2.狭隘化と資料保存

目標：年々増加する図書や雑誌を収納するスペースの確保を目指す。

方策：各館において利用環境の整備と合わせて、増改修を含めた必要な方策を実施すると共に、全学共通の保存書庫の設置を目指す。合わせて、大学アーカイヴズ事業との連携による貴重資料・歴史的資料の保存体制や、機関リポジトリ等を活用した資料のデジタル保存についても検討する。

#### 3-1-3.複合型施設

目標：図書館の多機能化を目指す。

方策：中央図書館においては、大学アーカイヴズの併設を実現する。医薬学図書館では富山県に關係する医学・薬学資料等を収集・提供する「富山の医薬学資料室」の設置を実現する。芸術文化図書館においては、博物館的機能とのコラボレーションによる改修を実現する。

### 3-2.学習支援機能

#### 3-2-1.学生用図書

目標：学生用図書の質・量両面での更なる充実を目指す。

方策：シラバス掲載図書の網羅的整備を進めるとともに、授業やラーニングコモンズでの学習に必要な図書等を更に充実させる。現在の選定方法の見直しを図り、指定図書制度の導入など、当該分野において重要な図書や学生のニーズの高い図書を機動的に購入できる体制を整備する。

#### 3-2-2.ラーニングコモンズと学習支援設備

目標：予・復習やレポート・卒論作成等、学生が個人で集中して学習・研究に取り組めるスペースを確保するとともに、グループでの協働学習やメディアを活用した学習などの新しいタイプの学習を支援するラーニングコモンズの実現を目指す。

方策：中央図書館においては、既存スペースの改修によりラーニングコモンズ・スペースの実現を図る。各分館においては、各キャンパスの役割に応じたラーニングコモンズ機能の実現を図る。

### 3-2-3.情報リテラシー（情報利活用）教育

目標：情報リテラシー教育の充実を目指す。

方策：図書館資料の使い方や学習を進めるに当たって必要になる様々な情報の収集方法等、各種説明会や講習会等を実施する。また、各授業担当教員との密接な連携によるリテラシー教育にも力を入れる。

### 3-3.研究支援機能

#### 3-3-1.電子ジャーナル・データベース等

目標：本学における学術研究活動に必須な電子ジャーナル・データベース等の提供水準の維持・充実を目指す。

方策：附属図書館運営委員会の下に、電子化された学術資料の整備に関する専門部会を設置し、これまでの経緯等を検証した上で、本学で整備すべき電子ジャーナル・データベース及び電子書籍等の選定及び予算措置の在り方に関するルールを策定し、定期的な見直しを行う。

#### 3-3-2.研究用資料

目標：本学の研究活動に即した特色ある研究用コレクションの構築を目指す。

方策：全学的に整備すべき大型コレクションや貴重図書等の選定体制を整備する。

### 3-4.蔵書構築と資料予算

#### 3-4-1.蔵書構築の在り方

目標：3館の役割連携のもと、各館の使命に応じた蔵書構成の最適化を目指す。

方策：各学問分野毎の出版状況、蔵書量や利用率、カリキュラム等の分析に基づいて適切な選書を行う指針や体制を整備する。また、重複図書等不用図書の廃棄を積極的に進める。

#### 3-4-2.資料予算の在り方

目標：教育・研究上必要かつ十分な図書・雑誌等及び電子化資料を整備するための予算の安定的確保を目指す。

方策：学生用図書、研究用図書及び電子ジャーナル・データベースの充実に努める。必要とされる予算額について全学の理解を得るとともに、電子ジャーナル・データベースについては、今後も購読費が高騰を続けることが予想されることから、共通の経費と受益者負担の組合せによる経費の確保等多様な方式を視野に入れ、経

費負担の方法についてのルールを策定する。

### 3-5.社会貢献・地域連携

#### 3-5-1.機関リポジトリ

目標：機関リポジトリ（ToRepo）の活性化を目指す。

方策：教員への広報活動により、オープンアクセスに対する理解を促進し、収録コンテンツの拡充を図る。また、教員の負担を軽減するため、研究業績担当部署等と連携を図り、研究者データベース等とのシステム連携・データ連携の可能性を検討する。

#### 3-5-2.関係機関との連携

目標：地域の公共図書館や博物館、文書館等の関連施設との連携強化を目指す。

方策：県立図書館、市立図書館、その他関連施設等と、資料保存や職員研修、展覧会の共同開催等多様な連携事業を実施する。

### 3-6.組織と職員

#### 3-6-1.マネジメント体制

目標：図書館長をトップとする執行部機能の強化を目指す。

方策：3図書館それぞれの使命・役割を明確にし、図書館運営がより継続的、効率的に行える執行部体制の在り方を検討する。

#### 3-6-2.部局図書室との連携体制

目標：附属図書館と各部局図書室との連携体制の整備を目指す。

方策：附属図書館と各部局図書室との連携体制のあり方を検討する。

#### 3-6-3.図書館職員

目標：図書館運営を担う職員の資質の向上を目指す。

方策：特に選書能力、レファレンス能力、リテラシー教育能力の向上のため、学内外で開催される各種研修会等への参加や部内での自己研修等を充実させる。